

キャリア教育における多元的自己評価試論Ⅲ —2017年度の評価結果から—

中山 芳一

Essay on Pluralistic Self-assessment of Career Education Ⅲ — From the evaluation results of the 2017 school year —

NAKAYAMA Yoshikazu

<要 旨>

岡山大学で開講しているキャリア教育関連授業科目の中で、2つの授業科目を選定して2016年度第4学期に多元的自己評価測定を行い、その結果からキャリア教育における教育効果測定には、多元的自己評価が有効であるという検証を試みた。

この多元的自己評価を活用して、2017年度にも同じ2つの授業科目へ同様の教育効果測定に取り組むことができた。そこで、2016年度と2017年度の年度間比較を行い、当該授業科目の教育効果を明らかにするとともに、年度間比較によって見えてきた課題と今後の改善点についても検討した。

その結果、授業科目の基盤となるカリキュラムの確立が安定的な教育効果を生み出すとともに、年度ごとに変化する教育内容及び教育方法、受講生の属性の違いなどがもたらす教育効果の差異を見出すことができ、今後の改善につなげることが可能となった。また、多元的自己評価そのものについても成果と課題について検討した。

1. 本研究の目的

これまで、拙稿「キャリア教育における多元的自己評価試論Ⅰ—非認知能力を手がかりとして」（中山、2016年）を踏まえて、岡山大学で開講している「キャリア形成」の授業科目を対象に多元的自己評価の具体化を進めてきた。2016年度には、第4学期（2016年12月から2017年2月）に開講した2つの授業科目について評価測定を実施し、多元的自己評価方法の有効性も検討することができた。

そこで、本稿では2017年度の第4学期（2017年12月から2018年2月）に開講した同様の授業科目についても同じ評価測定を実施することで、当該年度の授業科目に関する教育効果測定と2016年度との比較を行い、当該授業科目の成果と課題を明らかにするとともに、以降の授業改善にもつなげたい。そして、多元的自己評価方法のさらなる有効性についても検討したい。

2. 2017年度第4学期における多角的自己評価結果

(1) キャリア形成授業科目における評価結果

2017年度第4学期(同上)に開講した「キャリア形成Ⅰ—コミュニケーション力に磨きをかける」及び「キャリア形成Ⅲ—企業を知り、業界を知る」の2つの授業科目を2016年度に引き続き、多角的自己評価を行った。

各授業科目は、いずれも60分を1回として、全15回のカリキュラムで構成されている。自己評価に関しては、1回目に受講学生の現状について前掲稿で提起した3領域(教育目標領域、非認知能力領域、意欲・姿勢領域)18項目の設問による自己評価(以下、Before)を行い、15回目にも同様の設問項目に基づいて自己評価(以下、After)を行った。下表は、前年度の評価結果と同様の形式にして、各授業科目において自己評価結果を設問項目ごとの増減(After－Before)で整理したので参照されたい。

i) キャリア形成Ⅰ—コミュニケーション力に磨きをかける

【Before 回答数：76名／After 回答数：76名】

Q1. 受講後のあなたの知識や技能等について自己評価をしてください(教育目標領域)

質 問 項 目		るてよ はく まあ	るてや はや まあ	いまあ らてま なはり	なはくま いまあ らてた
1	コミュニケーションとは何かを明確に理解している	+26	+6	-32	±0
2	他者とのコミュニケーションに高い意欲を持っている	+34	-18	-16	±0
3	他者との適切なコミュニケーションを取ることができる	+13	+9	-22	±0
4	常に思考しながらコミュニケーションを取ることができる	+21	-4	-18	+1
5	他者の思いを共感的に理解することができる	+23	-12	-11	±0
6	コミュニケーションを取った後にふり返ることができる	+19	-5	-12	-2

Q2. 受講後のあなたの資質・能力について自己評価してください(非認知能力領域)

質 問 項 目		るてよ はく まあ	るてや はや まあ	いまあ らてま なはり	なはくま いまあ らてた
1	他者とコミュニケーションをとる力	+14	+15	-29	±0
2	他者とのコミュニケーションを改善する力	+23	-4	-18	-1
3	他者と折り合いを付けながら協調する力	+25	-12	-13	±0
4	自分や周囲にある問題を発見する力	+16	+5	-21	±0
5	問題を解決するためのプランを立てる力	+12	+14	-24	-2
6	問題解決に向けて行動できる力	+12	+1	-12	-1
7	将来に向けてのビジョンを描く力	+9	+13	-19	-3
8	社会人になるために着実に準備する力	+7	+20	-26	-1
9	自ら考えて行動し、活動や労働に臨む力	+16	+4	-19	-1

Q3. 受講後のあなたの授業での意欲や姿勢を自己評価してください（意欲・姿勢）

質 問 項 目		るてよ はく まあ	るてや はや まあ	いまああ らてま なはり	なはくま いまあ らてた
1	本授業科目に意欲や期待感を持つことができた	+24	-20	-4	±0
2	受講時に意欲的な姿勢で取り組むことができた	+24	-21	-3	±0
3	予復習・課題に意欲的に取り組むことができた	+17	-11	-6	±0

ii) キャリア形成Ⅲ—企業を知り、業界を知る

【Before 回答数：80名 / After 回答数：80名】

Q1. 受講後のあなたの知識や技能等について自己評価をしてください（教育目標領域）

質 問 項 目		るてよ はく まあ	るてや はや まあ	いまああ らてま なはり	なはくま いまあ らてた
1	自分自身の中で働く意義を明確に持っている	+1	+12	-14	+1
2	社会や仕事に向かう上で高い意欲を持っている	+5	+15	-20	±0
3	将来就きたい業種や職種を明確に決めている	+3	-2	±0	-1
4	多様な業種や職種に幅広く興味を持っている	+15	+3	-17	-1
5	多様な業種や職種についての知識を持っている	+2	+17	-7	-12
6	多様な業種や職種について積極的に調べている	+2	+17	-5	-14

Q2. 受講後のあなたの資質・能力について自己評価してください（非認知能力領域）

質 問 項 目		るてよ はく まあ	るてや はや まあ	いまああ らてま なはり	なはくま いまあ らてた
1	他者とコミュニケーションをとる力	+6	+3	-6	-3
2	他者とのコミュニケーションを改善する力	+5	+4	-6	-3
3	他者と折り合いを付けながら協調する力	+8	-8	+1	-1
4	自分や周囲にある問題を発見する力	+14	-6	-7	-1
5	問題を解決するためのプランを立てる力	+7	-1	-4	-2
6	問題解決に向けて行動できる力	+6	+7	-15	+2
7	将来に向けてのビジョンを描く力	+4	+15	-13	-6
8	社会人になるために着実に準備する力	+8	+12	-17	-3
9	自ら考えて行動し、活動や労働に臨む力	+6	+2	-7	-1

Q3. 受講後のあなたの授業での意欲や姿勢を自己評価してください（意欲・姿勢）

質 問 項 目		るてよ はく まあ	るてや はや まあ	いまああ らてま なはり	なはくま いまあ らてた
1	本授業科目に意欲や期待感を持つことができた	+23	-17	-4	-2
2	受講時に意欲的な姿勢で取り組むことができた	+13	-8	-3	-2
3	予復習・課題に意欲的に取り組むことができた	+15	-4	-7	-4

上表をもとに、各質問項目において「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」といった肯定的な評価と「まったくあてはまらない」及び「あまりあてはまらない」という否定的な評価への移行を示すために、さらに下表の通り整理した。

i) キャリア形成Ⅰ—コミュニケーション力に磨きをかける			肯定的	否定的
Q1. 受講後のあなたの知識や技能等について自己評価をしてください	1	コミュニケーションとは何かを明確に理解している	+32	-32
	2	他者とのコミュニケーションに高い意欲を持っている	+16	-16
	3	他者との適切なコミュニケーションを取ることができる	+22	-22
	4	常に思考しながらコミュニケーションを取ることができる	+17	-17
	5	他者の思いを共感的に理解することができる	+11	-11
	6	コミュニケーションを取った後にふり返ることができる	+14	-14
Q2. 受講後のあなたの資質・能力について自己評価してください	1	他者とコミュニケーションをとる力	+29	-29
	2	他者とのコミュニケーションを改善する力	+19	-19
	3	他者と折り合いを付けながら協調する力	+13	-13
	4	自分や周囲にある問題を発見する力	+21	-21
	5	問題を解決するためのプランを立てる力	+26	-26
	6	問題解決に向けて行動できる力	+13	-13
	7	将来に向けてのビジョンを描く力	+22	-22
	8	社会人になるために着実に準備する力	+27	-27
	9	自ら考えて行動し、活動や労働に臨む力	+20	-20
Q3. 受講後のあなたの授業での意欲や姿勢を自己評価してください	1	本授業科目に意欲や期待感を持つことができた	+4	-4
	2	受講時に意欲的な姿勢で取り組むことができた	+3	-3
	3	予復習・課題に意欲的に取り組むことができた	+6	-6

ii) キャリア形成Ⅲ—企業を知り、業界を知る			肯定的	否定的
Q1. 受講後のあなたの知識や技能等について自己評価をしてください	1	自分自身の中で働く意義を明確に持っている	+13	-13
	2	社会や仕事に向かう上で高い意欲を持っている	+20	-20
	3	将来就きたい業種や職種を明確に決めている	+1	-1
	4	多様な業種や職種に幅広く興味を持っている	+18	-17
	5	多様な業種や職種についての知識を持っている	+19	-19
	6	多様な業種や職種について積極的に調べている	+19	-19
Q2. 受講後のあなたの資質・能力について自己評価してください	1	他者とコミュニケーションをとる力	+9	-9
	2	他者とのコミュニケーションを改善する力	+9	-9
	3	他者と折り合いを付けながら協調する力	±0	±0
	4	自分や周囲にある問題を発見する力	+8	-8
	5	問題を解決するためのプランを立てる力	+6	-6
	6	問題解決に向けて行動できる力	+13	-13
	7	将来に向けてのビジョンを描く力	+19	-19

	8	社会人になるために着実に準備する力	+20	-20
	9	自ら考えて行動し、活動や労働に臨む力	+8	-8
Q3. 受講後のあなたの授業での意欲や姿勢を自己評価してください	1	本授業科目に意欲や期待感を持つことができた	+6	-6
	2	受講時に意欲的な姿勢で取り組むことができた	+5	-5
	3	予復習・課題に意欲的に取り組むことができた	+11	-11

このように整理すると、いずれの授業科目においても前年度と同様に受講後には肯定的な評価へ移行している傾向にあることが分かる。そこで、この結果と前年度との結果からどのような変化が見られるのかを授業科目ごとに比較していくこととする。

(2) キャリア形成 I における前年度との比較

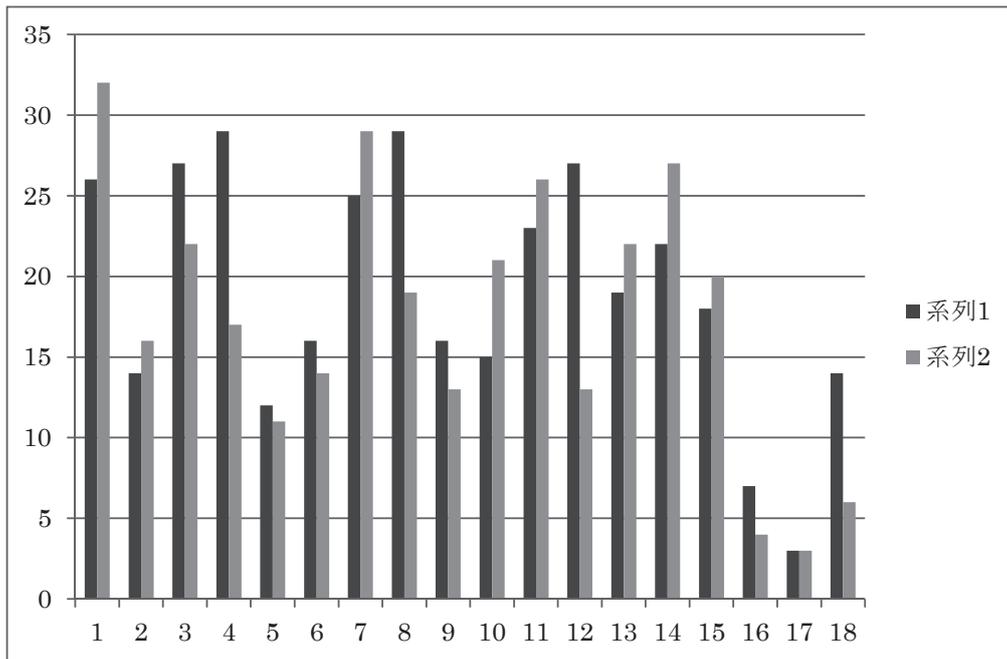
キャリア形成 I の受講者数について、2016年度と2017年度の Before と After ごとに下表のように整理をした。

	Before	After	増減
2016年度	75	74	-1
2017年度	76	76	±0
増減	+1	+2	

このように、2017年度の受講者数は2016年度と比較すると、Beforeで1名、Afterで2名の増加はあったものの、大幅なn数の差異はなかった。

その上で、BeforeからAfterの中で移行した肯定的な評価数について、年度ごとの数値を比較するための表ならびにグラフを下に示した。

i) キャリア形成 I —コミュニケーション力に磨きをかける		2016	2017	
Q1. 受講後のあなたの知識や技能等について自己評価をしてください	1	コミュニケーションとは何かを明確に理解している	+26	+32
	2	他者とのコミュニケーションに高い意欲を持っている	+14	+16
	3	他者との適切なコミュニケーションを取ることができる	+27	+22
	4	常に思考しながらコミュニケーションを取ることができる	+29	+17
	5	他者の思いを共感的に理解することができる	+12	+11
	6	コミュニケーションを取った後に振り返ることができる	+16	+14
Q2. 受講後のあなたの資質・能力について自己評価してください	7	他者とコミュニケーションをとる力	+25	+29
	8	他者とのコミュニケーションを改善する力	+29	+19
	9	他者と折り合いを付けながら協調する力	+16	+13
	10	自分や周囲にある問題を発見する力	+15	+21
	11	問題を解決するためのプランを立てる力	+23	+26
	12	問題解決に向けて行動できる力	+27	+13
	13	将来に向けてのビジョンを描く力	+19	+22
	14	社会人になるために着実に準備する力	+22	+27
Q3. 受講後のあなたの授業での意欲や姿勢を自己評価してください	15	自ら考えて行動し、活動や労働に臨む力	+18	+20
	16	本授業科目に意欲や期待感を持つことができた	+7	+4
	17	受講時に意欲的な姿勢で取り組むことができた	+3	+3
	18	予復習・課題に意欲的に取り組むことができた	+14	+6



これらの比較から当該授業科目について省察すると以下のような点が挙げられる。

- ①各領域の質問項目について、各年度のスコアの違いはあるものの、全体的にはいずれの年度においてもすべての質問項目でポジティブな結果を招いている。この理由としては、当該授業科目が、2016年度から2018年度の3年間にかけて第2学期と第4学期（計6回）にそれぞれ継続的に改善を重ねながら開講してきたことで、カリキュラムそのものが確立し、安定的な結果を生み出せているのではないかと考えられる。
- ②しかしながら、年度間の結果を比較した際の相違点から、各年度の授業科目における力点の置き方が顕在化したのではないかと推察できる。例えば、2016年度にはコミュニケーション場面のリフレクションについて力点を置いてきた。その結果、「4. 常に思考しながらコミュニケーションを取ることができる」、「8. 他者とのコミュニケーションを改善する力」や「12. 問題を解決するためのプランを立てる力」に関して、2017年度と比較して明確な差が生じたのではないかと考えられる。
- ③その一方で、2017年度に新たな試みを導入した点について、②の3項目ほどではないにしても、2016年度との違いが見受けられる。例えば、「1. コミュニケーションとは何かを明確に理解している」については当該授業科目の教科書を活用した反転学習、「10. 自分や周囲にある問題を発見する力」については外部機関をゲストスピーカーとして招聘した「消費者リスクコミュニケーション」に関する内容が影響したのではないかと考えられる。

いずれも2か年分の比較のみであり、精緻な検討は困難で、あくまでも推察の域を超えることはないが、確立したカリキュラムを基盤とした安定的な教育効果とともに、同一授業科目でありながら開講年度によって独自に力点を置いた授業内容の教育効果も得られるのではないかと窺えた。今後も、上述の意義と成果について検討を進めていきたい。

(3) キャリア形成Ⅲにおける前年度との比較

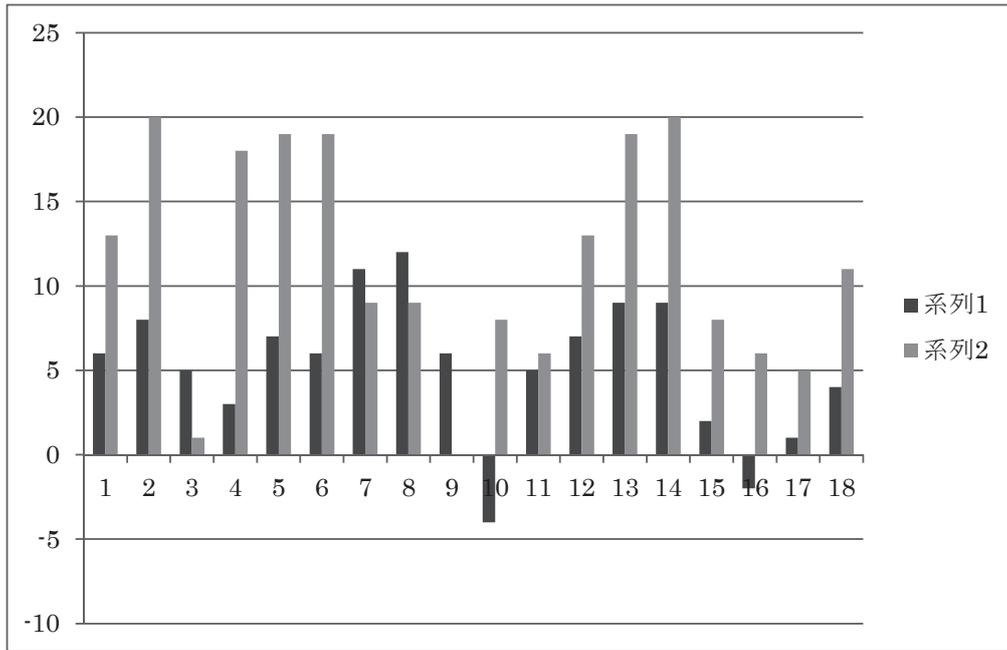
同様に、キャリア形成Ⅲの受講者数についても、2016年度と2017年度のBeforeとAfterごとに下表のように整理をした。

	Before	After	増減
2016年度	74	70	-4
2017年度	80	80	±0
増減	+6	+10	

このように、2017年度の受講者数は2016年度と比較すると、Beforeで6名、Afterで10名の増加があり、先ほどのキャリア形成Ⅰと比べるとn数に差異が見られる。

この差異を踏まえた上で、上表に示したBeforeからAfterの中で移行した肯定的な評価数について年度ごとの数値を比較するための表ならびにグラフを下に示した。

ii) キャリア形成Ⅲ—企業を知り、業界を知る		2016	2017	
Q1. 受講後のあなたの知識や技能等について自己評価をしてください	1	自分自身の中で働く意義を明確に持っている	+6	+13
	2	社会や仕事に向かう上で高い意欲を持っている	+8	+20
	3	将来就きたい業種や職種を明確に決めている	+5	+1
	4	多様な業種や職種に幅広く興味を持っている	+13	+18
	5	多様な業種や職種についての知識を持っている	+7	+19
	6	多様な業種や職種について積極的に調べている	+6	+19
Q2. 受講後のあなたの資質・能力について自己評価してください	7	他者とコミュニケーションをとる力	+11	+9
	8	他者とのコミュニケーションを改善する力	+12	+9
	9	他者と折り合いを付けながら協調する力	+6	±0
	10	自分や周囲にある問題を発見する力	-4	+8
	11	問題を解決するためのプランを立てる力	+5	+6
	12	問題解決に向けて行動できる力	+7	+13
	13	将来に向けてのビジョンを描く力	+9	+19
	14	社会人になるために着実に準備する力	+9	+20
	15	自ら考えて行動し、活動や労働に臨む力	+2	+8
Q3. 受講後のあなたの授業での意欲や姿勢を自己評価してください	16	本授業科目に意欲や期待感を持つことができた	-2	+6
	17	受講時に意欲的な姿勢で取り組むことができた	+1	+5
	18	予復習・課題に意欲的に取り組むことができた	+4	+11



キャリア形成Ⅲの年度間比較では、上述した差異を踏まえてもキャリア形成Ⅰ以上に年度間の違いが明らかに見える項目がある。

- ①まず、Q1の認知的な知識や技能に関する項目では、「2. 社会や仕事に向かう上で高い意欲を持っている」「5. 多様な業種や職種についての知識を持っている」「6. 多様な業種や職種について積極的に調べている」が2017年度の方が大幅に向上していることが分かる。
- ②次に、Q2の非認知的な資質・能力に関する項目では、「13. 将来に向けてのビジョンを描く力」や「14. 社会人になるために着実に準備する力」に同様の変化が見られる。また、「10. 自分や周囲にある問題を発見する力」については、前年度の-4から+8へと逆の結果を引き出していることも分かる。
- ③そして、Q3の意欲・姿勢に関する項目でも「16. 本授業科目に意欲や期待感を持つことができた」が、やはり-2から+6へと転じていることが分かる。

上述の3点に共通するのは、社会や仕事との接続を具体的にイメージしようとしていたり、モチベーションを高めようとしていたり社会や仕事への知識及び意識の高まりではないかと推察できる。この要因として挙げられるのは、受講する学生の学年にある。2016年度の実講者は約80%が1年生であるのに対し、2017年度の実講者は約80%が2・3年生であった。受講する学生の学年（1年生と2年生以上）が逆転現象を起こしたことで、上述のような明確な差異が生じたと考えられる。

この要因から、当該授業科目は1年生よりもさらに社会人へと近づく2年生以上の方が教育効果を高く得られやすいことが示唆された。

3. これまでの成果と今後の課題

(1) 年度間比較から見てきた授業科目の成果と課題

2016年度と2017年度にかけてキャリア教育関連授業科目における多元的自己評価に取り組み、年度間比較を行えたことで、単年度だけでは見えてこなかった当該授業科目の成果と課題について以下の通り検討することができた。

第一に、継続して授業科目を開講した上で改善を重ねれば重ねるほど、基盤となるカリキュラムを確立させることができ、各年度にかかわることなく安定した教育効果を生み出せることが見えてきた。まさに、教育実践におけるPDCAサイクルがポジティブな教育効果の持続可能性を高められることとなる。

第二に、基盤となるカリキュラムの確立とはうらはらに、各年度で力点を置きたい教育内容や挑戦的に取り組みたい教育方法を導入し、いかに均質性と独自性との「間」をつくり出せるかも継続開講する授業科目には求められる。その点では、独自性を前面に出すことで、教育効果にも差異が生まれ均質性とのディレンマが生じてしまうことも見えてきた。

第三に、授業科目の受講生の学年や背景が教育効果に影響をもたらすこともわかった。特にキャリア形成Ⅲのように社会との接続そのものが命題となるような授業では、その違いが明確に顕れたといえる。学年が上がるにつれて社会との接続はより現実的となり、受講生が抱くモチベーションやイメージと教育内容とが重なりやすくなる。この点においては、受講が望ましい学年などを特定することも求められるのかもしれない。

以上の成果と課題から、各年度において受講生の現状をとらえた各授業科目のカリキュラムデザインならびに教育方法について改善することが求められる。と同時に、授業科目を設計する側からも開講前から対象としたい受講生や力点を置きたい授業内容、さらには新たに取り組みたい教育方法を明確に発信して、受講生と教員との双方向的なマッチングを創出することも重要だと考えられる。

とりわけ、社会の現状と今後に依拠しやすいキャリアデザインが教育テーマであるからこそ、これらの点を踏まえた柔軟性は必要不可欠であり、受講生への発信やフィードバックをより一層意識的に取り組むことが重要になってくるだろう。

(2) 多元的自己評価に関する成果と課題

前項のような成果と課題ならびに今後の改善点を検討することができたのも、多元的自己評価に取り組んできた成果といえる。しかしながら、本稿では年度間の比較・検討を中心に行ってきたため、各領域に着目したり領域間の関連性を検討したりすることは十分といえなかった。今後は、引き続き年度ごとのデータを蓄積しながら、年度間だけでなく領域間の比較・検討を進めていく必要がある。

なお、その際には多元的自己評価の最大の特徴ともいえる非認知能力領域についてより一層精緻な検討が求められる。現時点では、非認知能力領域が数値（認知）化困難な能力群として総体的に項目化されているが、非認知能力そのものが抽象的な傾向性を持っているため、これらの中へ枠組みを設けることで具体化していく必要があるだろう。それが、漠然と非認知能力の変化をとらえるのではなく、どの枠組みの非認知能力に変化をもたらせたのかを評価できることにもつながる。以上を今後の課題として掲げておきたい。

<引用文献・参考文献>

- ・中山芳一（2016年）『キャリア教育における多元的自己評価試論—非認知能力を手がかりとして—』岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要編集委員会「岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第1号」
- ・中山芳一（2017年）『キャリア教育における多元的自己評価試論Ⅱ—2016年度の評価結果から—』岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要編集委員会「岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第2号」